

ようがいさん 要害山【富山町】

ふるさとは今

富山町の要害山は正式には重蔵山しげくらやまといい、戦国時代の富永山城守元保とみながやましろのかみもとやすの居城でした。

この山城は出雲、石見の国境にあり要害堅固であったことから尼子、毛利氏の石見銀山争奪戦の際は戦略上重要な拠点であったようです。

富永氏は初め尼子に属していましたが、後に毛利方となり1570年(永禄13年)には尼子勝久の大軍を国境でよく食い止めたようです。

この南麓には、所々に往時を物語る石垣や石段が散見できます。頂上は平坦で2,500㎡(約750坪)の広さがあり、地元老人会とりでで桜とつつじが植樹され、砦風のあずまやも設置されています。そして、富山町の棚田や日本海、三瓶山も望め、眺望は絶品で一見の価値があります。



中央の山が要害山(標高299m)



山頂からの雄大な眺め

◆要害山への行き方◆

国道9号「富山入口」交差点から、県道286号に入り、道なりに約5km行くと富山まちづくりセンターがあります。そこからさらに県道284号を約300m進むと要害山の道標と案内板があります。そこを右側の道に入り、約300mで駐車場(約3台駐車可)に着きます。駐車場から山頂までは徒歩で約10分。

案内板から駐車場までの道幅は大変狭いので、普通車以上の車でお越しの際は、まちづくりセンターに駐車し徒歩で行かれることをお勧めします。

富山まちづくりセンターまでJR波根駅より車で約15分。詳しくは、富山まちづくりセンター(☎0854-88-0001)まで。

表紙 あの頃～石見大田駅(昭和45年)～

大正4年7月に開業した石見大田駅の2代目駅舎(現在の駅舎)が完成したのは、昭和45年のこと。表紙は、完成式が行われた12月5日の写真です。

当日は、法被姿での花笠音頭や、餅まき、また、自動車で作った屋台10台が年末商戦で賑わう町をパレードするなど、市民も一緒になって新しい駅舎の完成を祝いました。

現在のように自家用車も普及していなかった当時は、この駅を利用している人も多く、駅前通りも賑やかでした。

また、開業以来「いわみおおだ」の名で長く親しまれてきた駅名も昭和46年2月1日「大田市駅」と改められ、大田市の中央玄関駅として新たにスタートしました。



建替前の『石見大田駅舎』(昭和30年代頃)

大田市駅の跨線橋の鉄製門柱は現存する日本最古のものです。明治23年に帝国鉄道庁神戸工場にて製造され、石見大田駅の開業時に移設されました。「I.G.R. MAKERS KOBE 1890」と側面に刻印されています。

帰省などで大田市駅を利用される際は、思い出してください。



この情報誌は定住促進を目的としています。

発行 / 大田市役所総務部地域政策課

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地
おおだの定住サイト「どがどが」

TEL:0854-82-1600

E-mail:o-tiiki@iwamigin.jp
http://www.teiju-ohda.jp/

FAX:0854-82-5885

http://www.city.ohda.lg.jp/

どがどが 検索